

## 2020年度第3回経営協議会議事要旨

- 日 時 2020年9月24日（木） 10:00～12:00
- 場 所 Zoomによるオンライン会議
- 出席者 田中 雄二郎学長、  
氏家 純一委員（学外委員）、遠藤 信博委員（学外委員）、  
河村 潤子委員（学外委員）、福田 誠委員（学外委員）、  
佛淵 孝夫委員（学外委員）、宮崎 隆委員（学外委員）、  
山口 武兼委員（学外委員）  
渡邊 守委員（改革・連携担当理事）、  
若林 則幸委員（教育・国際交流担当理事）、  
大川 淳委員（医療・情報担当理事）、  
木村 彰方委員（研究・評価担当理事）、  
今村 聡子委員（事務総括・男女共同参画担当副学長、事務局長）
- 陪席者 瀬下 明学長特別顧問  
鐘江 康一郎理事（IT化・業務改善担当）、  
藤谷 茂樹監事、岸上 恵子監事、廣川 和憲オープンイノベーション  
機構総括クリエイティブマネージャー、  
永田 勝総務部長、米澤 聡司財務部長、柴田 大施設部長、  
横山 直樹統合教育機構事務部長、  
秋葉 泰樹医学部附属病院事務部長、  
今泉 静雄歯学部附属病院事務部長、  
白谷 正洋戦略企画課長、荒川 徹統合研究機構事務長
- 欠席者 山口 寿一委員（学外委員）

### ○ 確認事項

#### 1 2020年度第2回経営協議会議事要旨（案）について

田中学長から、2020年度第2回経営協議会議事要旨（案）について、資料1に基づき確認を行い、原案どおり承認された。

## ○ 審議事項

### 1 附属病院に係る新型コロナウイルス対応状況及び運営方針について

大川理事から、附属病院に係る新型コロナウイルス対応状況及び運営方針について、資料2に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

また、遠藤委員から、重症患者の病床について、東京都からの要請よりも多く確保し重症患者を受け入れていることを東京都に明確に報告する必要があるとの意見があった。この意見を受けて、田中学長から、病床確保数については東京都に届出を行い、本学の対応状況をアピールしている旨の説明があった。

福田委員から、他の病院では東京都からの要請があっても対応していない理由について質問があった。この質問を受けて、大川理事から、ゾーニングにより通常診療ができなくなることへの懸念がある旨の説明があった。また山口武兼委員から、都立公社病院の場合、感染症指定病院が4つあるが、いずれも隔離が目的であり、今回のような呼吸器やECMOを使って重症患者を治療する事例は想定されていないことから、大学病院等に対応を依頼している旨の説明があった。

山口武兼委員から、長期戦の様相を呈している状況下で、新型コロナウイルス感染症以外の一般の患者への対応に係る病院の対応方針について質問があった。この質問を受けて、田中学長及び大川理事から、一般病床や手術室の稼働を上げることで対応していく旨の説明があった。

氏家委員から、前回の資料で説明のあった診療再開スケジュールのロードマップに対する進捗状況について質問があった。この質問を受けて、大川理事から、8月初めの第2波が長引いており、7月に提示したロードマップからは1か月程遅れているものの、病床稼働率がロードマップより上回っているため、患者受入数についてはロードマップのとおりである旨の説明があった。また、田中学長から、連休の人の動きが大きく、9月末から10月初めにかけて患者数が増大する可能性があり、患者数が増大した場合

にはロードマップの修正が必要となる旨の説明があった。

河村委員から、人員の配置や職員の心理的な負荷を軽減するための取組について質問があった。この質問を受けて、大川理事から、メンタルヘルスケアチームを4月から組織しており、精神科医及び心理療法士がストレスを感じる職員へのフォローアップを常に行っている旨の説明があった。

遠藤委員から、これを若手育成の機会と捉え、定期的に若手の職員を、コロナ対応をしている職員の交代要員とする新たなプログラムを組むことができるのではないかとの発言があった。

佛淵委員から、病床稼働率に対して手術件数や稼働額が上がっている理由について質問があった。この質問を受けて、大川理事から、手術件数を単純に増やすだけではなく、早く退院させやすい症例に対して手術室を割り振る等の努力をしている旨の回答があった。

## 2 今後の稼働見込み及び財務見通し等について

米澤財務部長から、今後の稼働見込み及び財務見通し等について、資料3に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

また、遠藤委員から、withコロナが何年続くか見通しが立っていないことや、今後同じような感染症が発生した時の対応として、国や東京都は補填または補助に関するルールを作成する必要がある旨の発言があった。

氏家委員から、銀行からの借り入れのコミットメントラインを設定することについての質問があった。この質問を受けて、米澤財務部長から、制度上、運営費交付金の4分の1相当である33億円の借入が可能であるが、今後、東京都の予算執行も迅速になってくることから、東京都の更なる補填を駆使した上で検討したい旨の説明があった。この説明を受けて、氏家委員から、利子の補助が出るのであれば、債券や研究費の取り崩しの前に銀行からの借り入れを検討すべき旨の意見があった。

宮崎委員から、次年度以降、休床補償が続かずに、休床病床を続けると経営的に厳しくなる場合への対応について職員数や診療科の再編等検討しているかとの質問があった。この質問を受けて、大川理事から、現状の

中で稼働率を上げることや、看護師の追加募集を行って新型コロナウイルス感染症による休床部分を再開することを計画している旨の説明があった。加えて、田中学長から、本学の看護師の平均在職年数は4.6年であり、看護師の追加募集は後年度負担には繋がらない旨の説明があった。

瀬下学長特別顧問から、病院の稼働や単価を上げることに加えて、コストの問題等の基本的な構造にも手を付ける必要がある旨の発言があった。

## ○ 報告事項

### 1 新型コロナウイルスに対する大学の対応について

若林理事、木村理事、渡邊理事及び今村事務局長から、新型コロナウイルスに対する大学の対応について、資料4-1から資料4-4に基づき説明があった。

また、山口武兼委員から、初期研修医及び後期研修医の研修への影響について質問があった。この質問を受けて、大川理事から、基本的に今までどおり実施しているが、集合研修や新型コロナウイルス感染症患者への直接的なアプローチには制限があるため、従来のように密度の濃い研修はできていない旨の説明があった。

宮崎委員から、タービン等のエアロゾルが発生する治療について、新しい治療体系を検討していただきたい旨の発言があった。この発言を受けて、若林理事から、既に資材の使い方等が変わってきており、今後、現場で実際に器具を扱う歯科医師や医療従事者から新しい対応策が出てくることが期待される旨の説明があった。

河村委員から、研究計画遅延による達成度評価が他大学と比べて低くなることへの懸念について、全学を挙げて新型コロナウイルス感染症に対応したことで研究に影響が生じたことを主張した方が良い旨の発言があった。この発言に対して、木村理事から、ロードマップを作っている研究の遅れを懸念しているが、実際には遅れを取り戻しつつある旨の説明があった。

## 2 令和3年度組織整備概算要求事業について

大川理事から、令和3年度組織整備概算要求事業について、資料5に基づき説明があった。

また、福田委員から、本件が今どのような段階となっているか質問があった。この質問を受けて、今村事務局長から、文部科学省へ提出した段階であることと、政府の概算要求は9月末が期限との説明があった。

宮崎委員から、新たに設置するヘルスイテリジェンス部門は研究を行う部門なのか、もしくはメディカルデータサイエンティストを養成する部門なのか、また、どのようなバックグラウンドの大学院生を受け入れ、どのような職種で活躍するのかとの質問があった。この質問を受けて、木村理事から、研究と同時に教育を行う部門であり、医学部や歯学部以外からも大学院生を受け入れていることや、修了生はメディカルデータサイエンティストとして医学や歯学のバックグラウンドを持ちながらビッグデータの解析ができるため、様々な分野で活躍できると思われる旨の説明があった。加えて、田中学長より、本学では社会人大学院制度があることや、Zoomを用いた授業が進んだことから、企業の方も受講しやすくなっている旨の説明があった。

遠藤委員から、プラットフォームの形成にあたり、海外のグローバルコネクションポイントを探ることが重要である旨の意見があった。また、リカレント教育として、企業の方が受講できるように検討していただきたい旨の発言があった。

山口武兼委員から、新しい臨床感染症の講座を作るにあたり、東京都の病院との関係も強化していただきたい旨の発言があった。

(以上)